

水すいえん焰

創刊号

2005.5.1

協立リハビリテーション病院
広報委員会

〒997-0346

山形県東田川郡楯引町上山添字神明前38

TEL.0235-78-7511 FAX.0235-78-7515

<http://www.turuoka-kyoritu-hp.or.jp>

E-mail:smcrh_ga@yamaikyo.or.jp

理念

障害があっても人間としての尊厳をもって生きることを支援する
リハビリテーション医療・介護をめざします。



この写真は、当院待合いホールの壁に掛けられている「四季の詩」という題名のついた額です。長さ278cm、高さ108cmの大きさです。西陣織の生地を使って、春夏秋冬を表したものです。2003年5月に大林組より寄贈頂きました。



広報発刊にあたって

院長 茂木 紹良

2001年6月に楯引町に新築移転をして以来、患者様、地域の組合員の皆様、町民の皆様にはご理解とご協力を得て医療活動を展開してまいりました。厚く御礼申し上げます。

現在、リハビリテーション専門医をはじめとした専門職の充実を図り、研鑽を積み重ね、医療の質の向上をめざして様々な取り組みを行っているところです。

また、地域の保健、医療、福祉等の関係機関との連携を強化し、効果的なリハビリテーション医療・介護サービスを提供し、地域リハビリテーション推進の一翼を担うことを目標に努力を積み重ねているところです。

当院のこのような取り組みを紙面を通して紹介し、皆様方からも様々なご意見を頂戴し、ご理解と信頼を頂けるよう努力していきたいと考えております。本誌が、皆様と当院との相互理解、相互交流に役立つものになることを期待してやみません。

協立リハビリテーション病院の理念について

「障害があっても
人間としての尊厳をもって生きることを支援する
リハビリテーション医療介護をめざします」

リハビリテーションとは、個々の身体の機能回復のみを目的とするのではなく、障害を持つ人間を全体としてとらえ、その人が再び「人間らしく生きられる」ようになること、すなわち“全人間的復権”を目標とすることです。

リハビリテーションの思想の発展・進化の一つとして、“ノーマライゼーション”という考え方があります。“ノーマライゼーション”とは、障害者を特別の存在とは見ずに、あるがままの姿で障害のない人間と全く同じ権利を享受できるものだという考え方と、障害者などを含んだ社会こそ普通の社会＝ノーマルであるという考え方を含んだ思想です。

私達は、“全人間的復権”と“ノーマライゼーション”の思想を実現する医療・介護を実践していくことをめざし、上記のような理念としました。

この理念を実践することには、多くの難しい課題がありますが、患者様をはじめとした多くの方々と力を合わせて取り組みを進めていきたいと考えております。

トピックス

新人・異動者発表会

当院では様々な研修や学習会を行っていますが、その中で新人や異動者を対象にした新人・異動者発表会というものを行っております。

毎年3月に、その年度に入職した職員と、異動となった職員が、1年間の学習の成果を症例発表という形で報告します。2004年度は多くのリハビリ技師が入職したこともあり総勢19名の職員が発表しました。

一例を挙げると、以下の通りです。

- ・ 初めて入院したパーキンソン病患者様と作業療法士の信頼関係と家族の障害受容(作業療法士)
- ・ 高次脳機能障害・失語症によりコミュニケーション困難であった症例へのアプローチについて(理学療法士)
- ・ 脳硬塞の患者様の在宅復帰を通して学んだこと(看護師)
- ・ デイケアでの受け持ち制の役割について利用者様との関わりから学んだこと(介護福祉士)
- ・ 外国人介護者に対して相談室の関わりで学んだこと(医療ソーシャルワーカー)
- ・ 病院内外から見える当院の特徴について(事務)

患者様や利用者様への援助や関わりで苦心したものの、大事なことを気付かされた症例、目標を達成できた症例、当院の内と外から見て気付いた特徴等々、発表を聞いた職員も大いに学ぶことのできた発表会でした。

発表に向けてまとめたことで、これまでの仕事のふり返りができ、課題も明らかになるなど、有意義な発表会となりました。



表紙「水焰」について

稲と生命の源である水と、文化の源である火との競演・融合する様を表現した「水焰の能」（櫛引町で毎年7月に開催：櫛引町ホームページより）より引用した表題です。

私達の医療が櫛引町に根付き、生命と文化を大切にしたい医療機関でありたいとの願いをこめてこの表題をつけました。